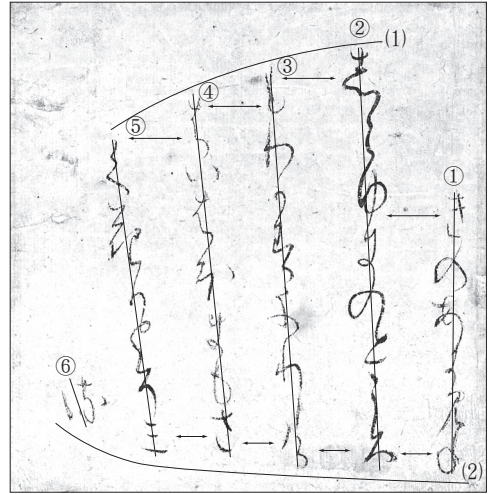
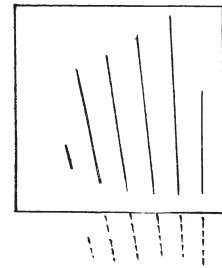


◆半紙たて書きに臨書して下さい。出品料430円



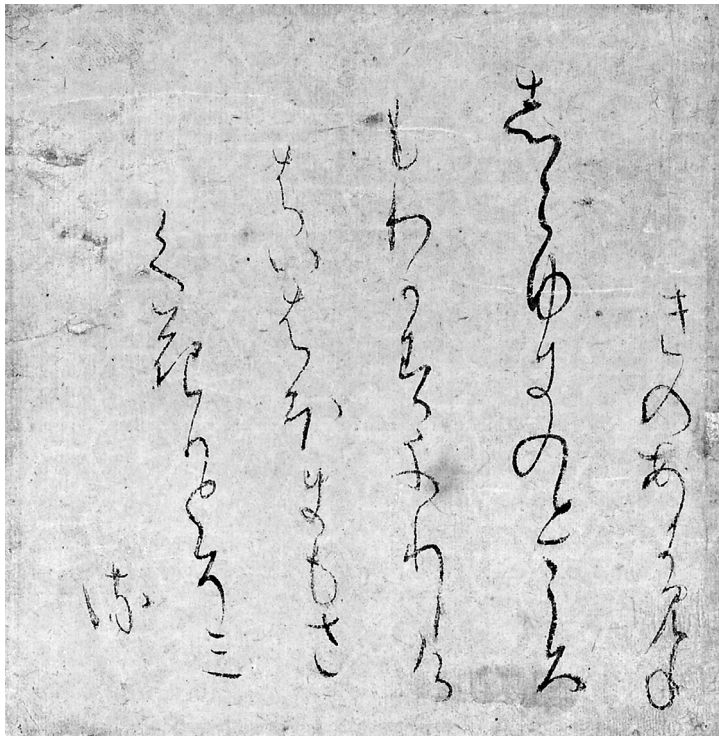
寸松庵色紙

骨組み



志 きのあきみね
 しらゆきのところ
 もわかずふりしけ
 ばいはほにもさ
 く花かとぞみる流
 者本利介
 可春
 可曾三

- 1、字句のあき見年 志らゆ支のところもわかず利介者本尔もさく花可と曾三流
- 2、形式 半紙をたてにし、下方を7cm位切り取ったものを準備する。小筆で六行を書く。落款は本文よりも下がらないように注意して入れる。
- 3、概観 散らし書きとしての構成は、極めてオーソドックスである。基本的でまとまりのある散らし書きと言える。四文字連綿や六文字連綿の仕方や、筆圧の変化等を学び、和歌を自分の力で散らし書きする時に大いに参考となる作品の一つである。
- 4、学習のポイント(散らし書きの妙を学ぶ『その三』)
 - (1)行頭を見る
 - ① うたの行頭 (②・③・④・⑤) は規則的な左下がりとなっている。:
 - (2)行脚を見る
 - 一行目の作者名も含め、わずかに左上がりとなり、最後の文字『流』の位置と大きさが全体をおさえている。:(②)
 - (3)行間と行の傾きを見る
 - 作者名も含め①から⑥の各行は同じ間隔であり、下へ進むほど間隔は狭くなっている。(↕)
 - 一行目(作者名)の下方延長線上で②から⑥の行が結束するように傾いているといえる。特に『流』の一目目は充分に考えられた傾きである。
 - (4)連綿を見る
 - 寸松庵色紙臨書の第一回目から第三回目までの学習を振り返り、緊張感のある連綿線を再現する。



※随意部参考(条幅)としてもご利用下さい。抜粋可。
 随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（四月二十二日締切）

課題

虎

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円

一字書や臨書部、漢字かな交じりの書は規定の漢字部・随意部・かな部とは違い新たな境地や書の楽しみを深めています。誰でも参加できますので是非チャレンジして下さい。

半紙課題（予告）（五月二十二日締切）

平岡華雪先生書 江は曠くして春潮は白し。（王勃）

江曠春
潮白

訳：川は広々として春の白い波を立てて流れる。

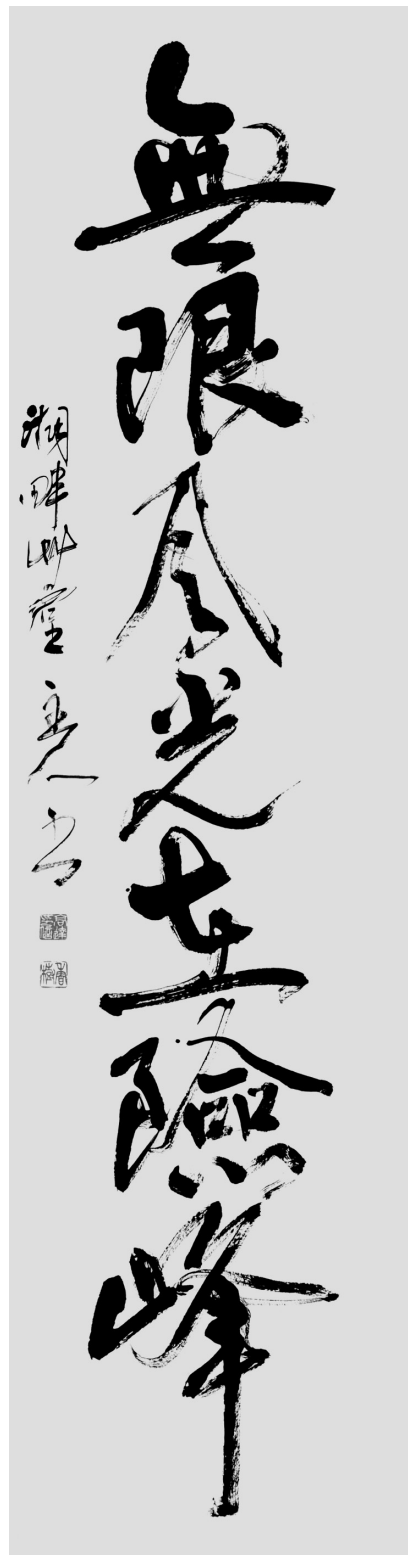
平岡華雪先生書 白々と花かまがふ新樹あり（虚子）

白々と
花かまがふ
新樹あり

A

高橋香樹会長書

無限風光在險峰 (毛澤東)
無限の風光險峰に在り。



B

鈴木静村先生書

半切に一行七字では、文字が小さくなくなったり、横幅の広い文字の羅列になりがちです。縦長の字を一、二入れ変化のある作としたいものです。落款は「湖畔草堂主人」と堂号に「主人」をつけました。両脇があきがちな作にはこのようにすると安定します。堂号は、自分の家屋や書齋にちなんで名づけるもので、落款を書く場合有効に使えます。ひとつ考えてみては。



無 「連火」四点、大小・筆意に変化の工夫を。限 「ござとへん」の二文字(限、険)を念頭において表出に配慮を。末画の払いを長めに突出。風 風構えを強く大きく脈絡、内部は引き締める。光 第一画斜めに入り、末画は下辺円弧を描き、上方に払う。在 墨継ぎ。第一、二画を続ける書き方は古典にあり。点は打たなくてもよい。険 「ござとへん」については前述。旁も草書体。峰 旁の三画目平らに。末画はのびやかに。訳：険しい高い峰にこそ、この上ない美しい景色がある。

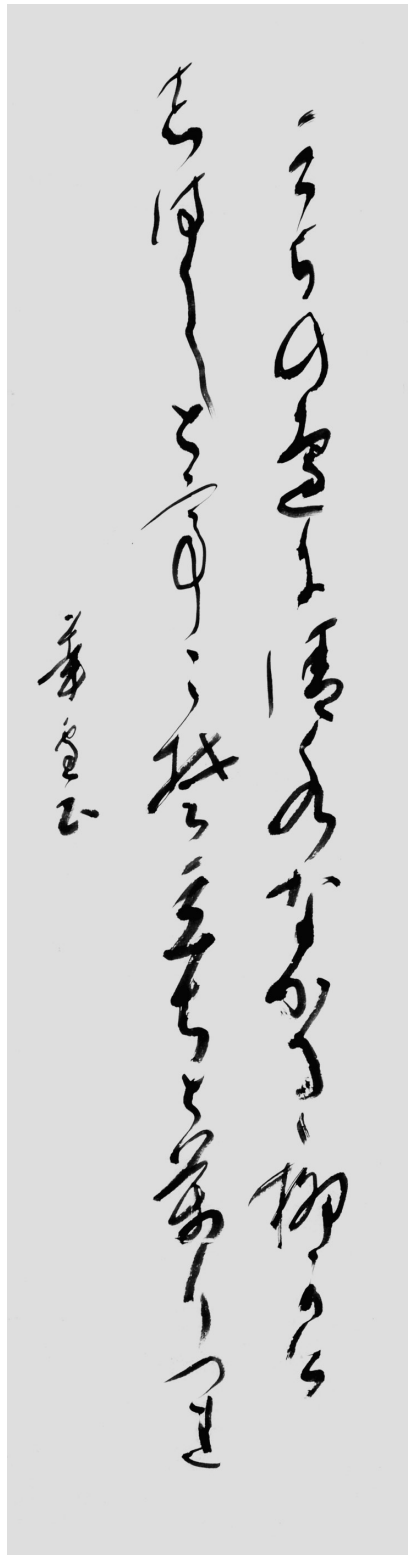
予告 (五月二十二日締切) 走馬西來欲到天 離家見月兩回圓 (岑參)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

道のべに清水ながる、柳かけしはしとてこそ立ちとまりつれ (新古今和歌集 西行法師)
三ちの邊へ清水なかる、柳可介志はしと亭こそ楚立ちと萬りつ連



B

石原春香先生書

三ちの遍へ清水奈可る、柳可遣志者し登てこそ堂地と万利都連



学び方

華雪先生のお作品は関戸本古今集を思わせる懐のひろい温かさのある作品です。
この歌を詠む時、目の前に情景が浮んできませんか。今回の作品は情景を表現してみます。清水の流れる様を右下から始め、ゆれる柳の木を長い「し」を渴筆で書き、柳の下でたちどまる姿をやや太めに書いてみました。
作品は四行書になりましたので文字の大きさはやや小さめになりますが、「柳可遣」は少し大きく書いてみてください。
渴筆の「し」の表現は筆圧とリズムで一本の線の中に墨色を出すことで作品をひきたたせてくれると思います。三行目、四行目は右にかたむけることで作品が引き締まります。

歌意

西行法師が東北地方を
目指し、夏の暑い中をゆ
く道すがらそこに水の清
らかな川が流れている。
その川のほとりに一本の
柳の木があり、夏の暑い
日射しをさえぎり日陰を
作っている。西行は
ほんの少し休もうと立ち
どまり一息入れるつもり
が、あまりにも心地よく、
つい我を忘れて長居をし
てしまった。

予告 (五月二十二日締切)

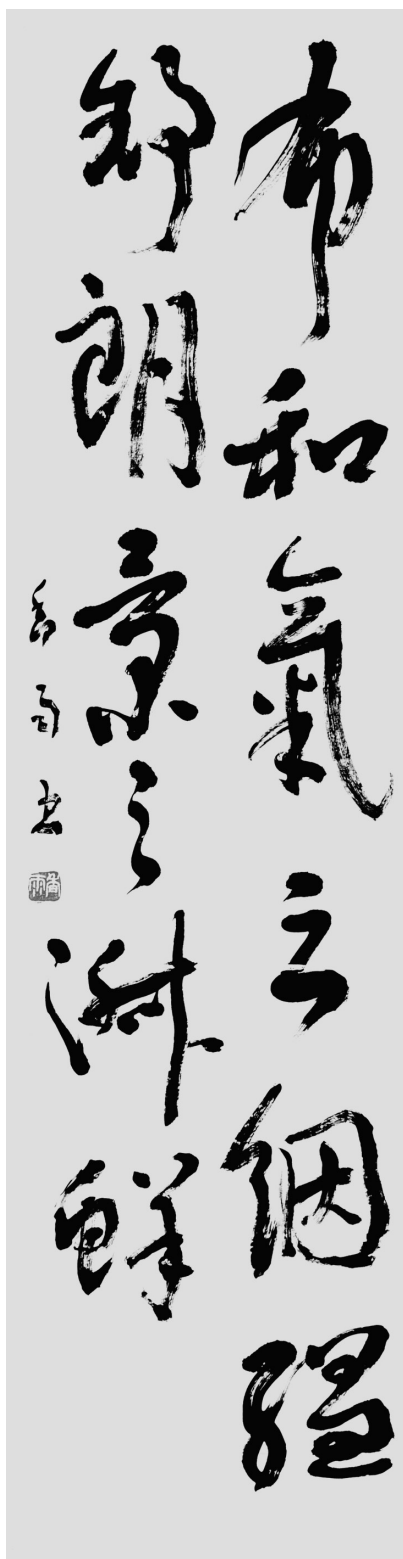
山道に昨夜の雨の流したる松の落葉はかたよりにけり (島木赤彦)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

酒井香雨先生書

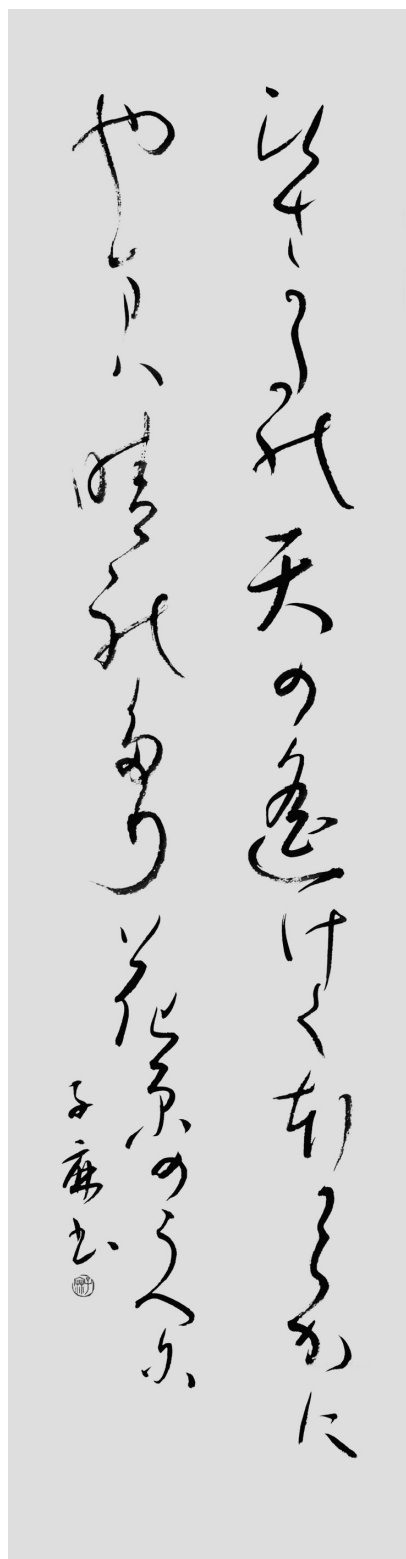
布和氣之網縷 舒朗景之淑鮮（李顯）
和氣の網縷を布き朗景の淑鮮を舒ぶ。



訳：和樂の洋々たる気をあまねくしき、晴朗なる景の好きをのべひろげる。

林子麻先生書

ひさ方の天の遙けくほがらかに山は晴れたり花原の上に（伊藤左千夫）
ひさ可多能天の遙け久本可らかにや万八晴礼多利花原のうへル



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

水貝潮華先生書

渚白い足出し

尾崎放哉

一月号に引き続き、少字数の作品に取り組んでみましょう。
紙・筆・墨の選択も色々工夫が必要となります。
私の作品はあくまで参考として、みなさんそれぞれの表現で、作品を書いてみて下さい。思い切った作品の提出を期待しております。



尾崎放哉 (一八八
五〜一九二六)
荻原井泉水の二高俳
句会に入会し「校友
会雑誌」寄稿、後に
「ホトトギス」に投
句。「層雲」に参加。
自由律俳句をのこす。
句集に「大空」「放
哉全集」など。

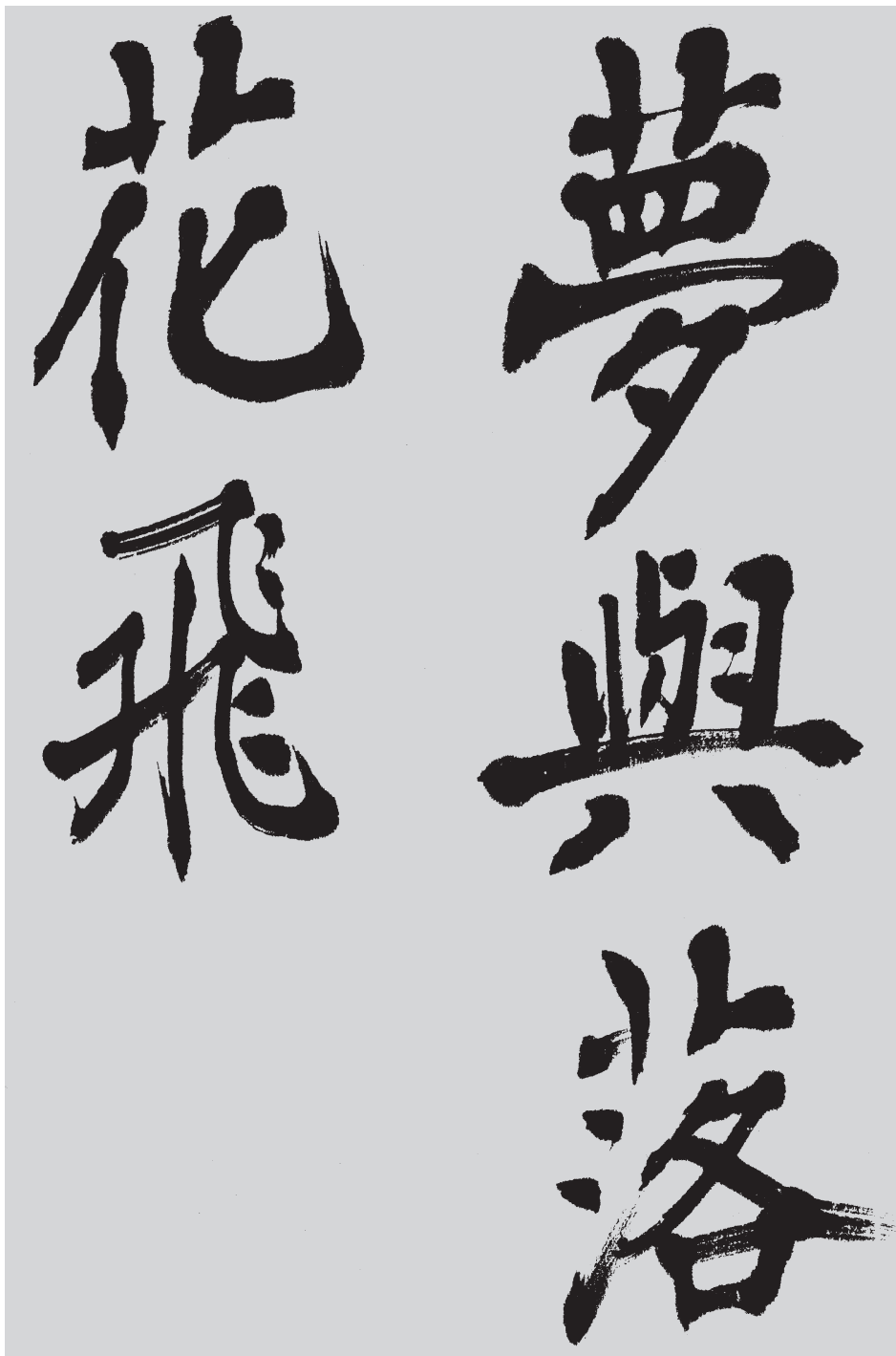
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

夢は落花と飛ぶ(陳文述)

訳：夢は、はかなく落花と共に飛ぶ。



〔草冠について〕
草かんむりの三文字ですが部首はちがう。夢は「夕部」
落・花が艸部。特に変化を意識せず、一画―二画―三画―
四画と弾みの筆意により軽妙に用筆されたい。変化にこだ
わって硬くならないことです。

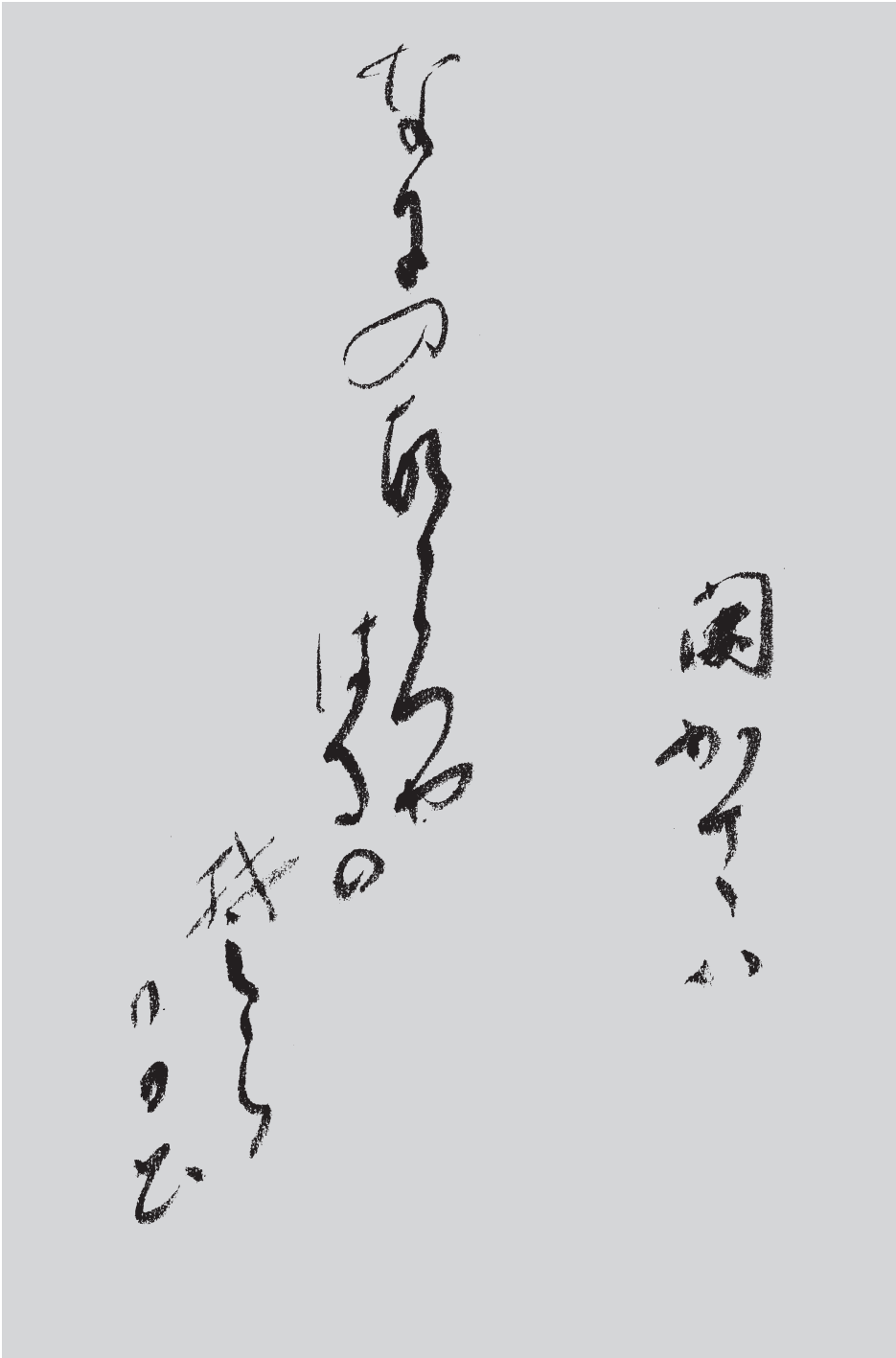


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

閑かさは何の心やはるのそら(千代女)
閑かさ^は八^はな^にの故^ころやはるの楚^そら



〈構成とバランス〉
上の句四文字一行書きを右辺に離して、中の句を中央に配し、下の句「はるの」を寄せて、主調となしている。「楚ら」をやや離し、落款と群をつくり、全体を締めている。左二群に照応できる筆意と動きを、上の句に付与し、バランス化に留意されたい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

川上香蓉先生書

路逢有識翁（良寛）
路に有識の翁に逢う

路逢有識翁
路逢有識翁
路逢有識翁

川上香蓉
書

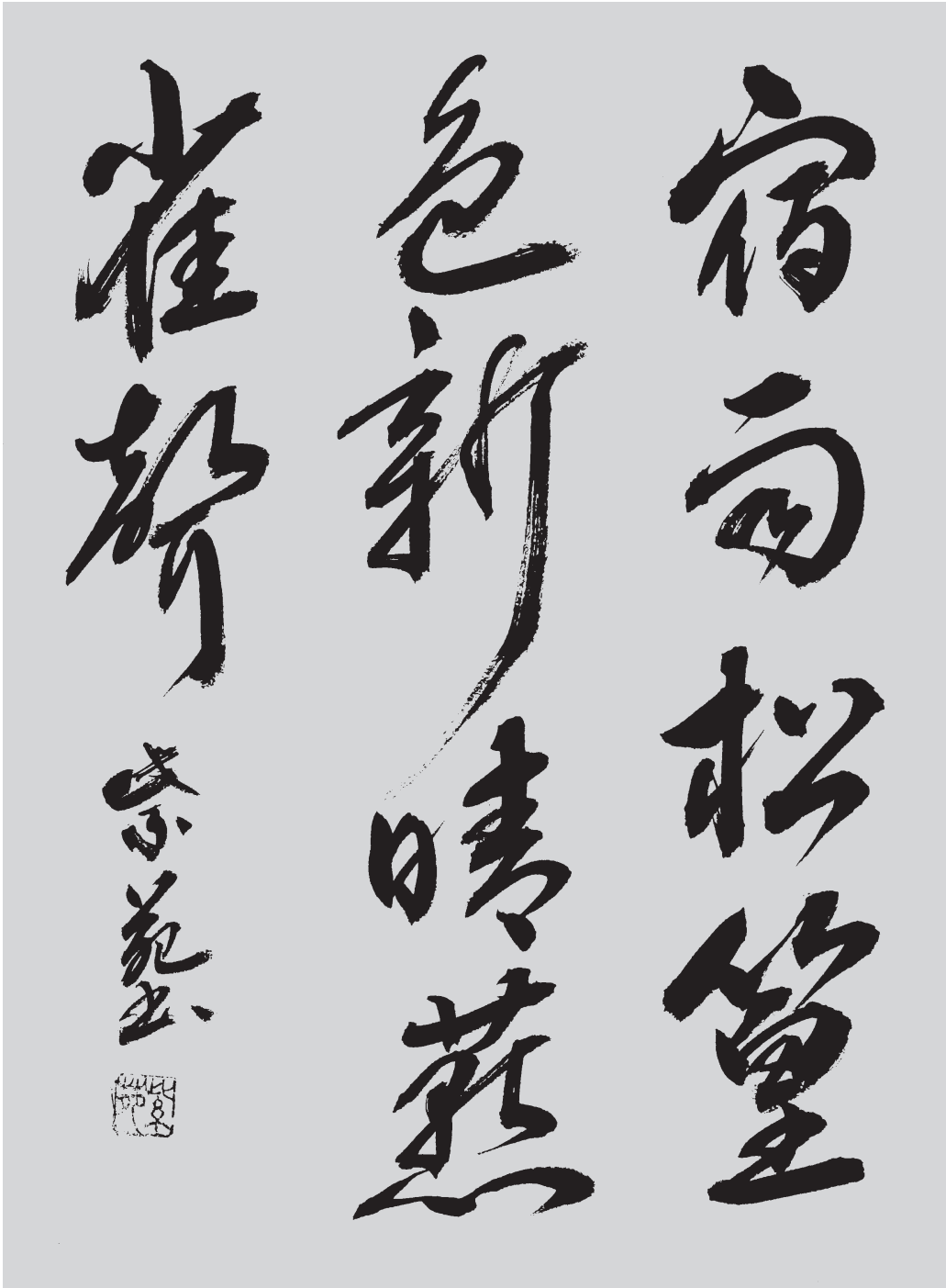
訳：路に旧識の翁に逢う。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

山田紫苑先生書

宿雨松篁色 新晴燕雀聲（范石湖）
宿雨松篁の色、新晴燕雀の聲。



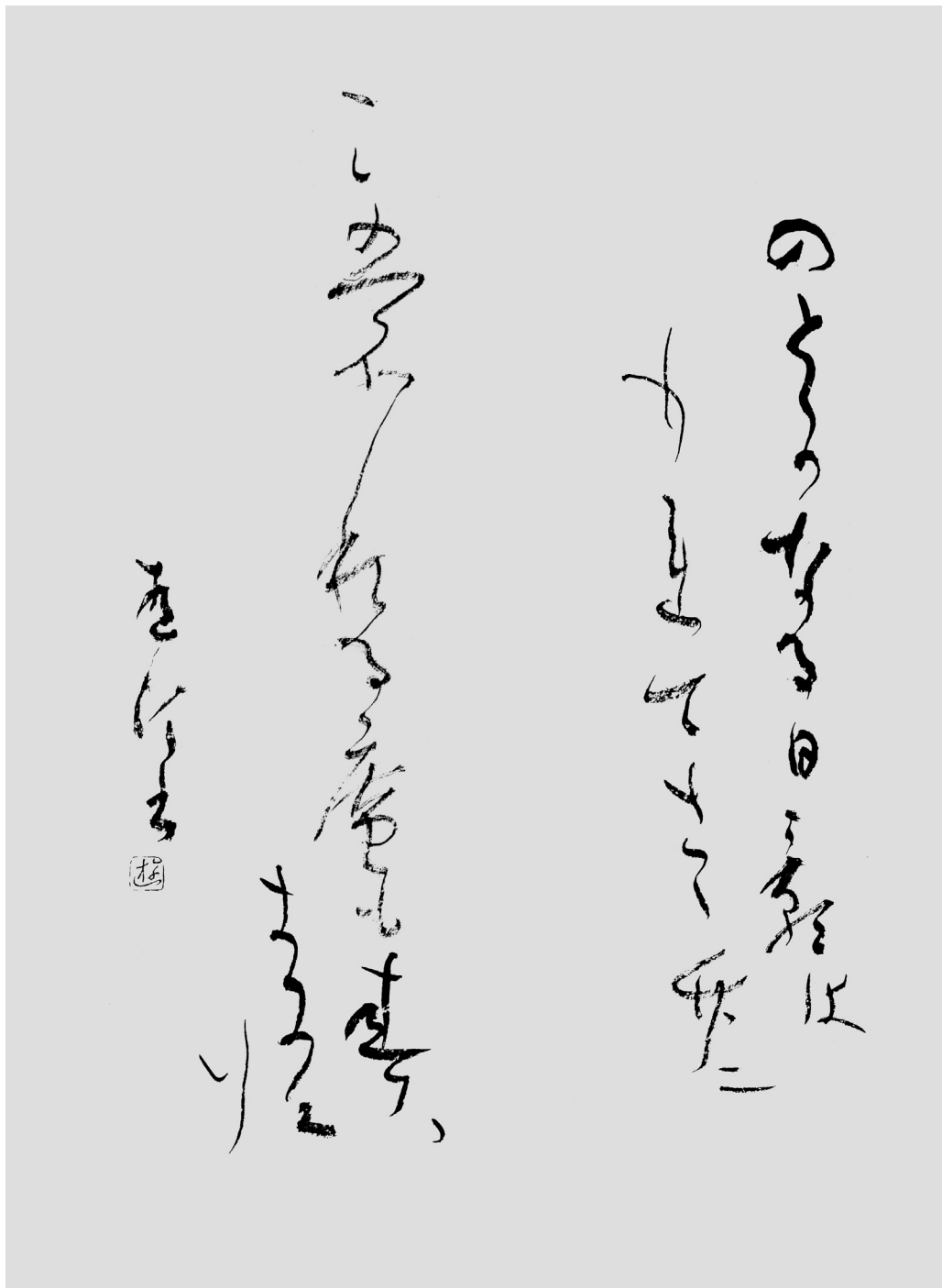
訳：降りつづける雨は松や竹にみどりの色を添え、晴れたひよりに燕や雀はかしましく鳴く。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

立川遊汀先生書

のどかなる日影はもれて笹竹にこもれる庵も春は来にけり（上田秋成）
のと可なる日影はも連てさ、竹二こ裳れる庵も春八支尔介り



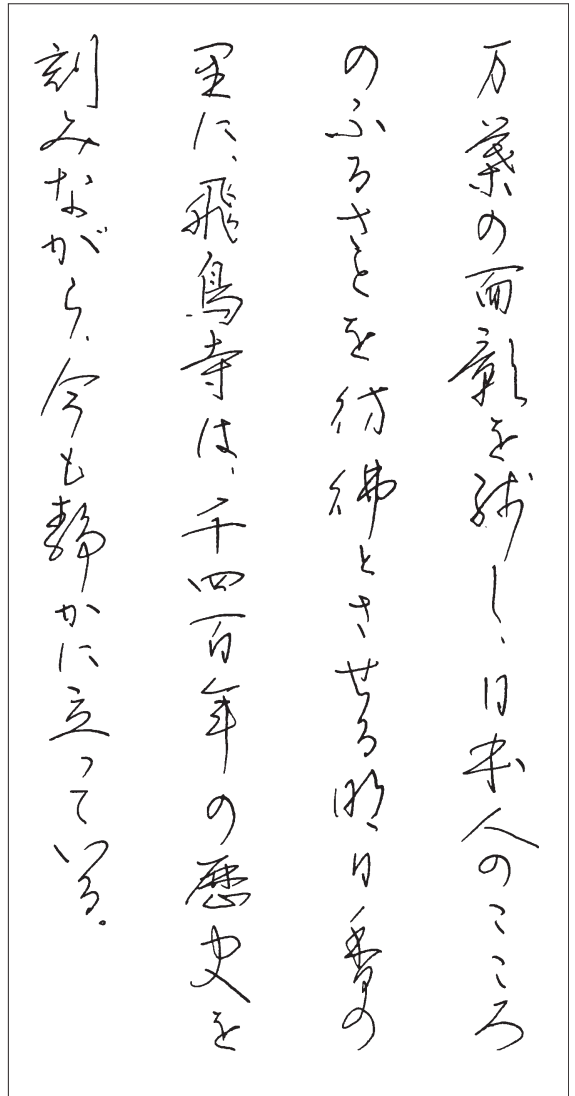
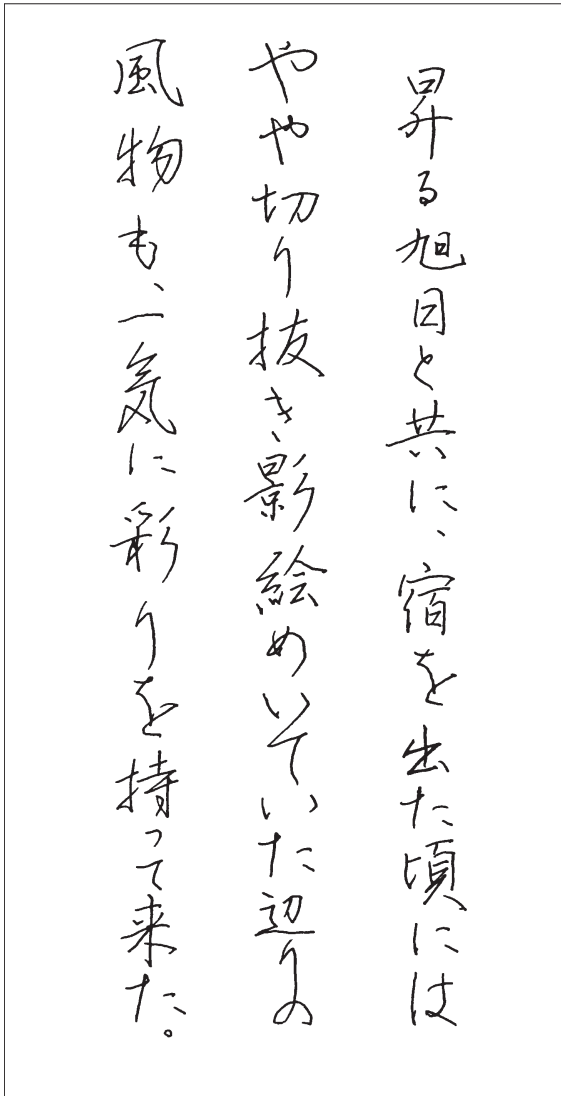
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

万葉の面影を残し、日本人のこころのふるさとを彷彿とさせる明日香の里に、飛鳥寺は、千四百年の歴史を刻みながら、今も静かに立っている。

「百寺巡礼 飛鳥寺」
五木寛之

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

昇る旭日と共に、宿を出た頃にはやや切り抜き影絵めいた辺りの風物も、一気に彩りを持って来た。

「鷺と雪」

北村薫